

---

# **家庭教師ヒットマンREBORN！ 秘密の少女**

あんみつ

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

家庭教師ヒットマンREBORN！ 秘密の少女

### 【著者名】

あんみつ

N4582Y

### 【あらすじ】

ある日、間違えて神に殺されてしまつて、死んでしまつた、愛原未来。<sup>あいはらみらい。</sup>

神に、「間違つて殺してしまつて、悪かつた。その代わりに、REBORN-の世界に転校させてやる。」  
と言われ。

未来は、自分が大好きなREBORN-の世界にいくことになった。  
しかし・・・彼女には、絶対に誰にも言えない・・・秘密があつた。  
その秘密とは・・・

この話は、シモン編が終わってからのオリジナル話。

## オリキャラ設定

名前	愛原 未来
フリガナ	アイハラ ミライ
身長	153cm
体重	40kg
髪型	お団子に、星がついているかんざしが刺さっている。
性格	めんどい事が嫌い、誰にでも偽の自分を出している。
好きなタイプ	強い人、かつこいい人、仲間のためなら何でもする人など・・・
嫌いなタイプ	弱い人、うるさい人、心配する人、ちよつかいしてくる人など・・・
武器	何でも使えるが、おもに、剣（赤色、黒色）
能力	心が読める、未来が見える、相手をのつと ことができる。



## オリキャラ設定（後書き）

初めての小説です。  
よんでもくれてありがとうございます。  
これからもよろしく。

誰かで余り…（前書き）

タイトル関係ないかも・・・

誰かに会つ！！

ある日の帰り道・・・・。

未来「はあ～今日も詰まんなかったなあ～。

何でいつも同じ事しないといけないんだり？」

一人で、ぶつぶつ言いながら、帰つていると・・・

？「そこのお前。

今日こゝを殺してやる。」

何を言つてるのかわからない人がこゝちらに向かつて走つてくれる。

その人の手には、なにかギラギラしているものを持っている。

次の瞬間、体に違和感が感じる。

まさか・・・と思い見てみると。

その人が持つっていた・・・ギラギラとしたものが刺さつてる。

それは、包丁だった。

未来は、そこに倒れた。

未来「うう・・・なに・・・これ・・・。

あ・・・れ・・・もしかして・・・死ぬパターン・・・か・・・

な・・・？」

未来は、苦しい顔で言った。

その人は、びっくりした顔で、

? 「なつ・・・お前は、違う人・・・

悪かつたな。

人違ひだつた・・・まあ、お前は、すぐ死ぬからな、安心しな。」

えつ・・・人違い??

うそ・・・こんな死に方やだよ・・・

もう、その言葉は、声に出せなかつた。

だんだん意識が・・・飛んでいく・・・

? 「じゃあな。

未来。」

未来は、意識を失つた。

誰かに会つ！（後書き）

今日は、長かつたですね。

また次回

神に命づけられ（前書き）

今日は、まだまだ書くかも・・・

## 神に会つー！

未来「うう～～」は？？  
だって私・・・死んだはずじゃないの？？」

未来が、悩んでいると・・・

？「おっ来た来た。

待つてましたよ～今度からは、もつと早く起きとね～

誰かが、話しかけてきた。

見てみると・・・美少年！～～

かつこいい・・・イケメンだ！！

えつ、でも何でここいるんだろう？

未来「あの・・・何でここにいるんですか？？  
イケモ・・・お兄さん。」

危ない、危うくイケメンつていうところだった。

ふう～良かった良かった。

未来が安心してると・・・

ロック「そつかあ～イケメンね～～いね！！

あつ、初めまして。

俺の、名前は、ロック。職業は、神様ね！！

未来「ようしへお願ひします。

えつーーと、私は、愛原未来です。

未来は、やっぱり氣づいてたんだ・・・えつ・・・神様?????

この人・・・神様

ロック「名前は、もう知つてたよ！…

さつき未来会つたし。  
」

ロックが、俺は、すごいぞと言つてゐるように聞こえる。

いやちがう・・・・そういつてゐる。

未来 えつ 会 あつたて、どこ?

卷之三

未来は、もう敬語ではない。

口ツク「えつ・・・だつて君殺したの俺だし

しゃべりあの悪口もん

未来に似てる人だつたし。まあ、ドンマイ未来

神戸会つー！（後書き）

後で、続きます。

神を讃む——（前書き）

前の続きです。

神を憎む！！

未来「ドンマイだつて・・・・・ふざけんなよ！…！」  
人を、まちがつた！…！…！それぐらいで、勝手に、殺すな

今度は、私が、お前を殺す！！！」

私は、人生でこれだけ怒ったのは、これが初めてだ！！

ロックは、私の前で、土下座をして、

口づけ一ごめんなさい。申しません……絶対に！！

あと、殺氣を遣してくださー。

で  
！  
！

ロックが、泣いて謝つて來たので、未来は、殺氣を消して・・・笑  
つて。

未来へえ～なんでも・・・・いいよ。

その代わりに、私が、想像した者をだしてね（一二コツ）」

偽の笑顔で、言つた。

ロックは、顔が青い。

口々ク「わかりました。今想像してください。

いきます。楽しんできてください。

あつちに行つたら電話があるんで、それでかけてください。

「

未来は、体が浮く感じになつて・・・落ちた。

神を讃むーー（後書き）

やつとREBORN-の世界ですーー。  
お楽しみ!!。

## REBORNZ!の世界!!

未来「いつたゞ～。あついたのか。ここがあ  
思いどりにホントになるんだ。」

感心しながら・・・携帯を探す。

ここは、並中から、徒歩5分の所だ。

一戸建てで、4階まであり・・・1階ずつとも広い。

未来は、携帯をとり、ロックにかけた。

未来「プルルル・・・プルルル・・・ハイ」

もちろんロックが出た。

未来「あつ・・・ロック。あのさあ～ワンホールで出でね。  
守らないと・・・わかるよね?/?」

未来は、笑いながら言つた。

ロック「わかりました。ああ～タンスに服があります。  
武器もありますんで・・・。  
いつてらっしゃい。」

未来「わかった。バイバイ～。」

これは便利！！

單行文字

REBORNZ! の世界!! (後書き)

次回みんなに会います!!

## ポンペレーハ // コーパス

「ここがあ〜変わらないな。

あつそだ〜!! 雲雀ど〜だ〜つていな。

ああ〜あ・・・・まついいや。

職員室行かなくていいや。怒られたら・・・ズンマイ

先生「ここで、転入生の紹介だ〜! あ〜入れ。」

私は、しなやかに入った。

未来「初めまして。愛原 未来です。よろしくお願ひします!!。」

未来は、偽笑顔で言った。

男子達は「かわいい〜」と言つており・・・

女子は「かっこいい」と言つている。

未来は、内心あきれている。めんべくせー。

私は、ある人を探していた。

沢田綱吉だ。

見つけた。しかも目合つちやた。

ツナ（えつ・・今俺を見た？？そんことないかあ～。）

獄寺「あのやうに・・10代目を見て！-10代目！-敵かもしだ  
ません！-！」

ツナ「獄寺君落ち着いて・・敵じやないよ・・たぶん。」

なんか言つてるな。私のことか！-！

先生「えつ～～と愛原は・・・沢田の隣だ！-！」

未来「わかりました。ありがとうございます。」

やつた～～ツナの隣だ！！

ボンバー・コーン会つーー（後書き）

いい所ですが・・次回です。

## ターゲットになるーー

未来は、ツナの隣に座った。

ツナの隣は、山本。間を挟んで隣が、獄寺だ。

ツナ「よろしくね。愛原さん。俺沢田綱吉。」

未来「あっ・・うん・・・よろしくね。  
わからなこと・・あるかい・・・よろしく。」

未来は、まだ信用できていないので・・途切れ途切れになってしまった。

獄寺「おーーーおまえ・・10代目になんて事を言つーー謝れーー」

獄寺が、怒るのでめんどくなつてしまつた。

「ひが、せつかく答えたのに・・・

未来「ごめ・・ん・・・・ツナ君・・・・」んな私で・・・・  
”ボン”コレーノ代目”に勝手に話しかけて・・・・」

私は、はつきりわかるよひと言つた。

ツナ（なんで愛原さん・・・ボン”コレ”と知つてゐるのーー）

あたりまえじゃんーーと心の中で囁いた。

獄寺「おーーーあとで屋上に来いーーー。」

赤ちゃんに会つーーー！

やつと授業が終わつた。

未来は、さつやと屋上へ行ひつとするべく

男子A「愛原さんかつこいよねーーーどり出身?/?」

女子A「愛原さんかつこいよねーーーどり出身?/?」

未来「あの・・・困ります・・・用事あるんで・・・ごめんね（ニコッ）」

未来は、人をよけながら出て行つた。

未来が、出て行つてもまだクラスは、うるさい。

未来は、並中のだいたいの場所は、知つてるので迷わない。

屋上についた。

かなり急いできたので、息が上がつている。

屋上には、沢田綱吉、獄寺隼人、山本武、それに・・赤ちゃんのリボーン。

未来「ハア・・ハア・・・・」めん・・待つた?」

まるで、デートの待ち合わせの言葉見たく言った。

ツナ「愛原さ」「未来でいい。」・・・未来ちゃん待つてないよ。」

獄寺「お前……また10代田に向かって……その態度直せよ……」

また・・獄寺が騒いでるよ。ああ～ひむせ～

山本「まあまあ、落ち着けって獄寺。」

獄寺「うつせえ……野球バカお前は、黙つてろ……」

いつまで続くんだろうつて思つていた。

沢田を見ると、困つている。

本当に、ボスなんだろうか?思つてしまつ。

リボーン「お前ら静かにしろ。俺達は、ここに話があるんじやないのか?」

リボーンが、言つとみんなは、黙つた。

未来「かつわい～赤ちゃんだ!……」の子ツナの弟??

未来は、あえてリボーンの事をバカにした。

リボーン「俺は、赤ちゃんじゃね・・ヒットマンだ!～（カチャヤ）」

リボーンは、未来に向けて銃を構えた。

シナは、おどおどしている。

シナ「未来ちゃん、危ないから、下がってリボーンも、銃をしまえ  
！」「

そうすると・・・リボーンが未来に、向けて撃った。

赤ちゃんに会つーー！（後書き）

長いですが、読んでくれてありがとうございますーー！

# アルコバーノ！！

ツナ「未来ちゃん！危ない！」

ツナにいわれたが・・・避けない。

獄寺、山本も、リボーンの行動が、突然だつたのか、動けない。

未来は、  
弾を素手でとった

この行動に、みんなビックリしている

未来・危ないなおり ツカサちゃんと赤ちゃんの教育してます

せりふ、殺氣を一割出しているだけなのに、みんな顔が、青い。

リボーン「未来・・・お前ファミリーに入らないか?」

リボーンが、未来に向かって語りてくれる。

未来 - 何ですか？ 私ボン - レはいりたくない。

、骸を倒すし、ヴァリアーに勝

蘭倒すし、

みんなは、ビックリしている・・・もちろんワーボーンも。

今まであつたことを、未来は、すべて知っている。

リボーン「未来・・・お前何者だ・・・答える・・・」

リボーン発言に、みんなは、我に帰った。

獄寺「そうだよ！！リボーンさんの言つとこいつ、答える！！」

未来「私は、ただの一般人だよ！！ただちょっと知つててるだけ・・・」

みんなは、（ぜつたい一般人じゃねよ！）と思つてゐる。

当然、未来は、心を読める。

未来「これを見ればわかるかな？」

私は、アルゴバレーノだ！！」

未来は、おしゃぶりを見せた。

チヨーンは、つけてるけど・・・虹色だ。

この中で、一番リボーンが、ビックリしている。

未来「じゃあね　みんなまたね！！」

未来は、屋上を去つた。

## アルコバレーノ！！（後書き）

この話は、まだ未来は、本心を出していません。

未来の本心は、これからです！！

アルコバレーノは、ロックに頼まれてなりました！！

何者？？

未来が、屋上から去った後・・・

ツナ「嘘だろ・・・未来ちゃんが、アルゴバレーーーー！」

ツナが、大声を出していった。

リボーン「うつせえぞ。俺もビックリしたぜ。虹色のアルゴバレー  
ノなんて聞いたことないぞ。

あいつ何者なんだ・・・」

リボーンが、言つと、獄寺が急に、走り出した。

ツナ「えええ～！～獄寺君急ごどつしたのー？」

獄寺「10代田！～俺あいつの後、追つてきます！～何者か調べて  
みます！～」

獄寺は、そういって屋上から、去つていった。

山本「おもしろいなあ～いっちょ俺も行くか、じゃあなツナ。」

山本も、獄寺のあとを、ついて行つた。

ツナ（えええ！～なんでみんな行つやうの・・・）

リボーン「お前も、ボスなんだから愛原のこと、調べて来い（ゴン）

」

リボーンは、ツナの頭を蹴った。

ツナ「わかったよ~行けばいんだろ、行けば!~」

ツナも、獄寺たちの後を、追つた。

リボーン「俺も、調べるか・・・」

リボーンは、誰もいない屋上で、笑っていた。

ナンパにあう！！

そのころ、未来は・・・

未来「おつー…やつぱりみんな私の」と、調べるんだ…！ 楽しみ

未来は、歩きながら未来を見ていた。

未来は  
家に帰っていると

男子A - 「これからどうするいい女いないしなあ」と

男子曰く「確かにしなしないありお!!」あの子言葉遣い子だ!!」「

昇元集

卷之三

その人たせか 未来に寄せてくる

男子A ねえねえ！君一回變しね？ わから暇？ ？」

未来は、おひえたフリをしながら

未来「えつ・・・私・・・可愛いですか?・・・そんなんの・・・困ります。」

未来は、泣きそうな顔をした。

男子達（（何）のためつかや 可愛い……）

男子B 「可愛こよーー泣かないでね。」

男子達は、おどおどしていぬ。

未来「あつがいへりぞもす・・・暇ですかゞ・・・」

未来は、だんだん笑顔に戻ってきた。

男子A 「ホント……じや あ俺りと遊ぼひよーー。」

男子が、うれしそうに囁いた。

未来「いいですか・・・君達何群れてるの。」・・・えつ・・・」

未来は、声が聞こえたところを、向いた。

その声は・・・雲雀 恭弥だった。

ナンパにあづけ（後書き）

わつとい、雲雀登場ですか……。  
いじめで、長い……。

雲雀 恽弥に会つ！！

男子達は、雲雀を見て齧えている。

雲雀「咬み殺す」

雲雀は、トンフラーを、男子達を殴つた。

男子達「くおおおおおお……！」

男子達が、吹っ飛んだ。

雲雀が、じつちを見て笑つた。

雲雀「次は、君だよ。」

殺氣を放つている。

未来も笑つて。

未来「えつ・・・・困ります・・・・私・・・・戦えないし・・・・」

未来は、フリをしているが、まったく雲雀は、気にしてない。

雲雀「いいから・・咬み殺されなよ。」

雲雀が、向かつてくる。

未来は、ため息をついて。

未来「いや……怖……くない……」

未来の発言に、雲雀はビックリした。

未来は、雲雀の攻撃をすべてよけている。

そこに、ツナたちが来た。

ツナは、雲雀の攻撃をすべてよけているのを見て、びっくりしている。

ツナ「す、ごめんね……ぜんぶよけてる……」

未来は、ツナたちが来たので、一步下がった。

未来は、小声で雲雀に向かって、

未来「ごめんね……もう終わりだよ……」

と、いつて未来は、逃げた。

ツナたち「あつ……逃げられた……眠いから帰る。」

雲雀「ちつ……逃げられた……眠いから帰る。」

雲雀も、帰つていった。

ツナ（なんで俺達が、来たから逃げたんだ？？）

ツナは、心の中で、疑問に残つた。

## 未来の好きな人！！

未来は、もうダッシュでツナたちから逃げてきた。

未来「危なかつた、絶対戦つてるとこ見せれないし……リボンに、目つけられたら、やばいし」

未来は、知らなかつた……もうリボンに、目をつけられていることを。

ロック「おい、未来。」

突然声がした。

周りを見ているが……誰もいない。

ロック「当たり前だよ……俺は、お前の中にいるから……みえねえよ。」

未来「ああ～そうか。で、何の用？」

突然、殺氣を出した。

ロック「殺氣出さないでください。お願いします。」

なぜかロックは、泣きやうな声で言つた。

未来は、そこまで悪魔ではないと、思い……殺氣を抑えた。

ロック「あの・・・未来様。何でそんなに、沢田たちと仲良くしないんだ。」

せつかぐ、REBORN！の世界に来たのに？」

未来は、ちょっと困った顔で、

未来「ツナたちと仲良くしたいけど・・・私は、あいつらよりも、もっと別の人には、会いたいの！！」

ロック「誰だよ！？ お前が、そんなに会いたい人って？」

未来は、顔を赤くして

未来「それは・・・その・・・ええ・・・言つたの・・・？」

ロックは、未来の顔を見て、顔を青くした。

ロック（かわいい・・・だけど、こんな人にやつて、態度変わるのがよ。）

未来「なんか言つた！？」

未来は、突然殺氣を出した。

ロック「いえ・・・なんでもありません。誰だよ！？」

未来「わかつた言つ・・・その、ヴァ、ヴァリアーなんだけど・・・  
・／＼／＼／＼」

ロック「ヴァ、ヴァリアーだと！ お前ヴァリアーが好きだったの

かよー！」

未来「私ね、その・・・好きな人の前では、途切れ途切れになっちゃうの・・・」

ロック「だから、沢田たちの時も、あんなったのかー！なるほどー！」

ロックは、すべてわかつた。

ツナたちと話す時、あんなにおどおどしていたのが、わかつた。

未来「これ秘密だからねー！絶対だよー！」

つと、言つて、家に帰つた。

## 未来の好きな人！！（後書き）

作者「未来は、ヴァリアーが好きだったとねえ～」

未来「べ、べつにいいでしょ！…ヴァリアーがすきでも！…／＼／＼／＼

作者「特に、誰が好きなんですか？」

未来「えつ・・・誰が・・好き？・・・そんなのいえない…！」

作者「じゃあ、ヴァリアーの人にはわせます。」

未来「会つたら・・・死んじやう・・・」

作者「皆さん！！未来は、誰がすきなんでしょうか？」

会つてからのお楽しみ～！～」

## 宣戦布告！！

次の日の朝・・・

未来「やば～い！！遅れる！！！」

未来は、朝から遅刻になりそうだった。

今、8：10分

学校に着いた・・・8：15分

未来「セーフ！！あれ？？誰もいない！！ああ～今日学校休みだつた！！」

未来は、てっきり学校があるかと思った。

未来は、歩いており、屋上へ向かつた。

屋上について・・・

未来「うう～気持ち～」

体を、伸ばしていると、

ツナ「未来！！何でここにいるーー！」

えっ・・・と思い見てみたら、ツナたちがいた。

ツナは、ハイパーモードツナになつており、額には、死ぬ氣の炎があつた。

未来「何やつてるの？？みんなそろつて。」

未来は、平然と聞いてきた。

リボーン（なんだこいつびづくつしないんだ）

未来は、心を覗いていたので笑つている。

リボーン「こいつらの、修行をしている。」

未来「へえ～そなんだ。」

未来は、興味なかつた。

自分より弱いからだ。

リボーン「おい、愛原！～！」こいつらの相手になつてほしい。

みんなビックリしている。

未来はため息をついて

未来「いいよ でも、死んでも知らないよ。」

未来は、殺氣を出しながら言つた。

リボーン（こいつは、すげえな。）

未来は、一步前に出て、

未来「ここにいる、みんなで来ていいよ。私、勝てるからー。」

みんなは、その言葉に、喜んでいた。

未来「なに？怖いの？あの”ボンゴレー0代田フアニコー”が脅えてるなんて・・・アッハハハハ！」

獄寺一貴様！！バカにしやがって！！」

リボーン「うるせえぞ！－始めるぞ。」

静かになつた。

未来「じやあ」の「インが、床に着いたらスタートね」

未来は、コインを、弾いた。

## 宣戦布告ーー（後書き）

「これから、戦いですよーー！」

未来は、戦いになると、我を忘れます。

**戦い始まる！！**

「インが、床についた。

先に、攻撃してきたのは、獄寺だった。

獄寺「カンビオ・フォルマ  
形態変化」

獄寺は、姿が変わった。

未来「へえ～これがね・・・どんなの？」

獄寺「瓜ボム！..」

瓜が、こっちに来た。

未来は、避けようとしない。

未来は、くらつた。

だが、傷一つもついてない。

未来「なんだ～これだけ・・・つまんない」

獄寺立ちは、ビックリしている。

未来「ねえ・・・終わりにしていいかな 飽きたし・・・」

未来は、そういうて・・・獄寺たちに、向かってくる。

獄寺は、未来の行動が、早くて見えなかつた。

獄寺「なつ！！はええ！！」

未来は、獄寺の前に立ち、一瞬笑つて、蹴つた。

未来「一人終わり！！二人目いつきまーす！！」

そういうて、次は、山本の前にいた。

山本（なんだこの速さ・・・）

山本は、反応できなかつた。

山本も蹴りで、飛んでいつた。

未来「二人終わり。三人目」

笹川の前に、立つ。

笹川も飛んでいつた。

未来「みんな弱すぎ！！最後だね・・・ツナー！」

今度は、ツナから行つた。

もうそこには、未来はいなかつた。

ツナ（どこだ？）

ツナは、探してゐる。

未来「後ろだよ。うしろ・・・

未来は、ツナの後ろにいた。

未来「これで終わった。」

ツナも、飛ばされた。

リボーン「俺達の負けだ。お前強いな。」

未来「どうも……じゃあね……！」

未来は、いなくなつた。

## 戦い始まる…（後書き）

すいません。あまりバトルシーンはつまらできなーいんで…・・・省略しました。

考える！！

未来は、家に帰つており、

未来「みんな弱すぎ・・・せつかく楽しみにしてたのにー!ー」

ため息をした。

未来の、田の前に口ヅケがあれわれた。

未来は、急に殺氣を出した。

「ツケ、殺氣引込めた。」  
「かないと、未来がよすぎない」

未来・お前に「から」 働くなつた!!」

「うう、アリバは行こ  
うアリバはあ  
アリバはあ  
アリバはあ

ロツクは、いつも以上元気になつた。

未来は、顔を赤くしていった。

ロック「別にいいじゃね。行くつぜーー。」

未来「えつ・・・でも学校は・・・」

ロック「病気ついで。こりゃーーー。」

未来「わかった。準備する。」

未来は、自分の部屋に行って、準備し始めた。

ロック（俺が、せんぶ手配してやる）

未来たちは、早速空港に行つた。

**考える！！（後書き）**

次回、ヴァリアーです！！

未来が、好きな人がわかります！！

イタリア！！

未来は、今イタリア行きの飛行機に乗っている。

あれから数時間後、イタリアに着いた。

未来は、体を伸ばした。

未来「ああ～やつと着いた！！飛行機の中最高～だよーー！」

未来は、飛行機の中で、曲を聴いていた。

もちろん好きなキャラクターのキャラソンだ！！

ロック（おい未来！～ヴァリアーの本部に着いたら、部下をのつと  
て、侵入しろ。）

未来は、心の中で頷いた。

未来は、ヴァリアーの本部に向かっていた、

未来（ここであつてるの！？全部森じゃん！～）

未来は、後ろから、飛んできたものをとった。

見たら、ナイフだった。

未来は、確信した。

「……、ヴァリアーだ。そしてナイフの主は……ベルだ！！

ロック（何見つかってるんだよー早くのっとれ）

未来は、走った。

ベルは、追いかけるのをやめた。

ベルは、通信機を出した。

ベル「しししつ隊長侵入者発見！！そっち向かつた

?」「つ、お、おいー！何やつてるんだよ、ちっ、しょうがね。」

ベルは、切った。

ベル「誰だよ・・・・・あいつ・・・・・

## ヴァリアーに会つ！！

未来は、ヴァリアーの警備隊を見つけた。

未来（氣絶させないと・・・めんどうなあつ！ロックやつてこい！）

未来は、ロックをパシリした。

ロックは、どんどん倒していく。

未来「これでいいよね！のうとてる間は、楽だな！」

未来は、一人の警備隊の中に入った。

未来「へえ～」いつレヴィのぶかなんだ・・・かわいそ～

未来は、のつとつた相手の、情報がわかる。

未来は、庭に向かつた。

庭に着いた。

未来は、自分になつた。

未来「やつぱり！～自分の体が一番」

A「見つけたぞ！～侵入者だ！」

未来は、笑顔で逃げた。

未来(じみ)は、今(いま)のわれに、今(いま)のわれに、

未来は、近くにあつたドアに、逃げた。

? 「う、お、おい！貴様が、侵入者か！！」「

未来は、振り返つてみたらヴァリアーのみんないた。

未来「えつ・・・・聞いてない・・・」

? 「う、お、おい3枚でやるー!」

• • •

? 「おー、てめえ何者だ」

睨まれたよ・・・ぜんぜん怖くないけどね

未来「えつーーーと・・・一般人でーすーーー！」

うわあ～みんなの視線が、痛い。

? 「何バカなこと言つてんだ！！」

この人ひどくない・・・人をバカだつて！！あとで、殺す。

? 「ふん、かつ消す。」

ベル「ちょっとボス！…まずいつて。」

?「ムムム、やばいね。あいつ死んじゃうよ。」

みんな戸惑ってるね。おもしろい〜

未来「貴方が、ボスですか? ハハハイー！」

笑いながら言った。

未来は、急に顔を、無表情にした。さらに、殺氣を出した。

ヴァリアーのみんなは、未来の行動にビックリしている。

?（何だこいつ。急に殺氣を出しあがつた。）

未来「私と、殺りますか? ヴァリアーの皆さん」

また、笑顔で言った。

?「いいぜーかす鮫つれてーーー」

未来は、殺氣を抑えた。

## ヴァリアーに会つ---（後書き）

未来は、最初は、恥ずかしかったけど・・・戦いモードのスイッチ  
がはいりました！！

## ヴァリアーと戦う！！

未来が、歩いていると、

? 「お前、名前は…！」

未来「えつーと…ルビー・ルミネ・未来だよ…！」

スクア・ロ「俺は、スクアーロだあ…！」

未来は、無視した。

未来は、次に赤ちゃんを見た。

マーモン「ムムム、僕は、マーモン。」

未来は、笑った。

未来（今は、喋りたくないし）

スクアーロから、他の人の名前を聞いた。

未来は、ポケットから、携帯を出し、イヤホンをつけた。

スクアーロ「お前、曲聞くのか…！」

未来は、頷いた。

未来が、聴いてる曲とは…・・・ベルの「bloody prin

ce「だ

未来は、普段から、曲を聴いている。

ベル「着いた。ししそつ、楽しみ～」

XANXUS「来たか・・・お前の相手は、カス鮫とレヴィだ・・・」

未来「ねえねえ、XANXUSあー、ホントに、こいつらでいいの？」

XANXUS「ああ・・・・・」

未来は、笑った。

未来「すぐ終わるなあ～。」

スクアーロ「すぐに終わるのは、てめえだ！！」

スクアーロが、剣を振って、近づいてくる。

未来は、それをよけスクアーロの後ろに立ち、蹴った。

スクアーロは、飛んでいき、壁に合つた。

レヴィは、最初に終わらせてある。

未来は、剣を向けた。

スクアーロ「俺の負けだ！！」

XANXUS「おもしれ～気に入った。かす鮫こいつを、入れるぞ  
！！」

未来「ありがとうございます！！頑張ります。」

未来は、その部屋から、出て行つた。

ネックレス・・・

今は、朝・・・

未来「ふあ～よく寝た！～今は・・・・・10・45分」

未来は、時間を確認すると、着替えて部屋を出た。

ロビーに行つたが、誰もいない。

未来「あれ誰もいない・・・・なんでもえ？」

未来が、困つていると、

スクアーロ「お前今起きたのがあ！～！」

あさか「ひつねえなあ～と思いながら、部屋をでた。

自分の部屋に着くと、首から掛けていたネックレスを見た。

そのネックレスを見ると、悲しくなる。

でも・・・これは見ないといけないもの。

忘れてはならないこと。

未来は、氣づくと泣いていた。

未来は、誰か来たらいけないと思い、涙を拭いた。

そのネックレスを首に戻し、見えないようじした。

絶対に、見せられない。

必ずこの記憶は、忘れないよ・・・

未来は、心の中で、誓っていた。

未来は、我に帰ると、誰かが見ていろと、思った。

未来「誰！！そこにいるのは。」

ドアは、開いた。

ドアから見ていたのは・・・

## ネックレス・・・(後書き)

ちょっとシリアルになりました。

皆さんは、わかりましたか？

ネックレスのこと。

ネックレスに映っているものは、

未来の秘密にかかわります。

やじにいたのは、

ドアのところにいたのは、マーモンだった。

未来は、ため息をついた。

未来「なんだマーモンか、良かつた。」

マーモン「未来、どうして泣いていたんだ?」

マーモンは、聞いてきた。

未来「えつ・・・マーモンは、そんなこと知らなくていいから・・・」

未来は、悲しそうに言った。

マーモン「どうしても知られたくないんだね。」

未来は、頷いた。

未来「マーモン・・・このネックレスはね、大切な人から、もらつたの。

でも、私は、その人に、酷いことをしてしまった・・・・

未来は、ネックレスを握り締めながら、言った。

未来「『めん・・・こんなところ、他の人には、見せられないよ。

マーモンでよかつた～」

未来は、泣きやみ笑つてゐる。

マーモン「未来、話がある。アルゴバレーーノについてだ。」

未来「いいよ。話してあげるナビ・・・最低限ね。」

未来は、ネックレスをしました。

未来「じゃあ、何から話そつかーー！」

## 虹のアル「バレーノ使命」――

未来「これを見てわかるよね。ちよつと訳があつて、鎮はこれないよ。」

未来は、鎮がついてくる、虹色のおしゃぶりを、マーモンに見せた。

未来は、マーモンが、おしゃぶりを見たのを確認して、話を進めた。

未来「このおしゃぶりは、リングにもなるの。」

未来は、おしゃぶりをリングに変えた。

マーモン「ムムム、これはすこしね。」

未来「そうでしょー。虹色の使命は、

（それぞれの守護者達を、見守ること）。）だよ。」

未来は、低い声で叫んだ。

マーモン「へえ～、わんなんだ。未来ならできなんじやない。」

未来「ありがとわ。これで話すことないから。」

マーモン「わかったよ。じゃあね。」

未来は、マーモンに手を振った。

未来「本当は、もう一個使命あるんだだけじゃね。」（二二七七）

この声は、外に漏れることがなく、消えた。

最後に残つたことは、笑つている未来の顔だった。

## 虹のアルゴバレーの使命！－（後書き）

実は、マーモンにいたことは、本当の使命じゃ ないんです！！  
(これも本当の使命だけど・・・)

未来の、本当の使命は、必ずわかります！！

## 未来の設定（追加）――（前書き）

ここからちょっと話が変わります。  
絶対に読んでください！！

## 未来の設定（追加）――

今日は、学校が休みの土曜日だ。

ロック「大変だ……未来……」

未来「どうこう」と一なんなの……」

ロック「この世界に、お前のお母さんがいたんだ……」

未来「えつ……どうこう」と……」

ロック「お母さんの名前は、エメラルド・ルミネだ……」

未来「じゃあ私の名前は？」

ロック「イタリアでの名前は、ルビー・ルミネ・未来だ。」

未来「わかった。」

ロック「今度、エメラルド主催のパーティがある。

そこには、ボンゴレやヴァーリアーも出る。

有名なマファアがいっぱい来るんだ。もちろんお前もだ！」

未来「えつ……そんな。」

未来「えつ……そんな。」

ロック「そこで、母親を見るんだな。」

未来「そんな・・・まいつか」

そして話は終わった。

## パーティ前日!!

パーティの前日、

未来「明日だけ、エメラルドのパーティ・・・だるいなあ～」

未来が、呟いていると、ドアがなつた。

未来「誰? ここで用件を言って。」

ベル「ししあつ俺。ボスが、集まれって。」

未来「OK。今すぐいく。先行つて。」

未来は、ベットから降り、着替えて部屋を、出た。

未来「遅れてしませーん。話つて何ですか?」

未来は、何で呼ばれたのか、知つているからだ。

スクアーロ「う、お、おい! おせえぞ」

未来は、無視をして、席に座る。

スクアーロ「無視すんじやねえ。」

未来「ねえねえ、何の話? ボス」

未来は、XANXUSを見ながら言った。

XANXUS「明日、エメラルドのパーティがある、そこにいくぞ」

ヴァリアー全員が、ビックリしている。

ベル「まじかよお」

未来「ねえ、なんで?」

未来が、ベルに聞いた。

ベル「エメラルドは、最強のマフィアだ。そいつに会えるなんて、  
相当ないぜ。」

未来「へえ、そりなんだ」

XANXUS「今日は、解散だ。」

未来は、楽しみにしていた。

母親が、どんな人か。

パーティへ！！

未来は、今、ヴァリアー専用の車に乗っている。

みんなそれのことを、やっている。

車が、止まり、外に出ると、メッシュでかい城だった。

未来「でか～い！！」

興奮している。

未来が、ヴァリアーのなかで、一番に入った。

中を見ると、ツナたちもいた。

ベル「じしじつ 未来、はしゃぎすぎや。」

未来「ハーヴィー

適当に返事をした。

未来「ねえねえ、スクアーロ。エメラルドさんビックヘ

未来は、わからないので、聞いた。

スクアーロは、指をさした。

スクアーロ「あいつだ」

未来は、ビックリした。

なぜなら、スタイルも抜群で、かなりの美人だった。

ヴァリアーの全員で、エメラルドのところ行く。

未来「どこに行くの？」

マーモン「エメラルドのところ行くんだよ。あこせつだよ」  
話しているうちに、着いた。

エメラルドは、気づいてこっちを向いた。

エメラルド「ヴァリアーの皆さん、来ていただきありがとうございます。」

今日は、楽しんでいいください。」

ボスが、挨拶をしているので、違うところに立つとあると、

エメラルド「貴方、新しい人？名前は？」

急に、話かけてきたので、後ろを向く。

未来は、丁寧に挨拶をして、

未来「初めてまして、エメラルドさん。ルビー・ルミネ・未来です。呼んできました」と、ありがと

「いらっしゃいます」

エメラルドは、驚いている。

エメラルド「貴方が、ルビーさんなのね。」

すると、エメラルドが、小声で

エメラルド「いらっしゃい。私の娘。」

未来は、驚いて離れてしまう。

ベル「どうした？」

未来「なんでもない」

未来は、あせつた。

「いやで、ばれたらたいへんだ。」

周りが、暗くなつた。

あいつが、始まるのだ。

エメラルド「今日は、来ていただきありがとうございます。」

挨拶が、始まつた。

未来は、皆とはなれて、外にいた。

未来が、ゆっくりしていると、後ろから男の人が、話しかけてきた。

セディ「貴方様が、ルビー・ルミネ・未来様ですね。私は、セディです。よろしくお願ひします。」

未来は、後ろを向いた。

その人は、黒いスーツを着ていて、イケメンだ。

未来「あの・・・私に何か用ですか?」

セディ「はい。エメラルド様から、命令があつたので、貴方を連れて行きます。」

未来は、驚いて、声が出ない。

セディは、未来のそばに行き未来の首のところを、手で打った。

未来「っ・・・」

未来は、意識を失った。

## パーティへ！！（後書き）

なんと新キャラです！！

セディは、執事です。

これから、未来はどうなるのか・・・

次回お楽しみ～

パーティへ～中～（前書き）

前の続きです。

## パーティへ～中～

未来が、目を覚ますと、部屋にいた。

未来「……」

未来が、うなづいていると、

セディ「お目覚めですかルビー様。これからルビー様は、舞台に立つてもらいます。」

未来「なんで……立つの……おかしいから……それに、皆は、私が、娘だって知らないでしょ……！」

「ふざけないでよ……」

未来は、大声を出して、訴えた。

セディ「大丈夫です。もう準備できます。服を見てください。」

言われた通り、服を見た。

未来「何これ……」

服は、ドレスだった。

白のドレスに、柄が入っており、柄は、バラだった。

腕には、薄ピンク色の手袋だ。

セディ「大丈夫です、ルビー様。今日は、皆様に、挨拶するだけです。」

未来「わかった。娘つて言つだけだよね・・・」

未来は、俯いていった。

セディ「はい、そうです。じゃあ行きましょう、ついてきてください。」

未来は、頷いて、セディの後に、ついていった。

未来（こ）この心が、読めない。ビックしてだーー！

未来が、いらっしゃっていると、セディがとまつて、

セディ「つきました、ルビー様。いつでもしゃいます。」

セディが、礼をする。

未来は、笑顔で、口パクをした。

「あ・り・が・と・う・ね

未来は、舞台に立つた。

皆が、ビックリしている。

ヴァリアーや、ツナたちも驚いている。

未来「皆様今日は、来ていただきありがとうございます。」

私から、お話をあります。

私の名前は、ルビー・ルミネです。」

会場にいる人たちが、ざわざわしている。

未来「私は、エメラルド・ルミネの、娘です。」

会場が、一瞬で静かになる。

ある一人の、男性が大声で、

男「嘘だ！！だって、エメラルド様は、子供などいない！！」

ましてや、こんな弱そうな女が、娘なわけない！！」

未来は、その言葉で、頭にきた。

未来が、言葉を言おうとすると、その男性が倒れた。

未来「なんで・・・」

その男性の後ろに立っていたのは、セティだつた。

セティ「ルビー様を、侮辱する者は、許しません。」

セティは、手を上げ、近くのメイドたちに、男性を運んでもらって

い。

エメラルドが、未来のそばにいき、

エメラルド「ルビーは、ちゃんと私の娘です。娘を侮辱するなら、私達は、その者を、殺します。

これで挨拶は、終わりだわ。皆様楽しんで行ってください。  
さい。」

未来と、エメラルドは、退場していく。

未来は、部屋に戻った。

未来は、その場に倒れ、泣いた。

未来「やだよ・・・誰か・・・たすけ・・・て・・・」

最後の言葉は、声にもならなかつた。

未来は、泣きやみドレスを、脱いで、違うドレスを着る。

未来「戻らな」と・・・

未来は、何もなかつたように、会場に戻る。



## パーティへ～中～（後書き）

未来は、何で泣いたのでしょうか・・・  
未来の、秘密にかかわります。

## パーティへ終わり

未来は、会場に戻つてきたが、ヴァリアーや、ツナたちには、会いたくない。

それは、舞台での挨拶のこと、母親のことなど、絶対に聞かれる。

未来は、それが嫌で、会わないようにしている。

未来は、これからどうするか、考えていた。

未来（このままヴァリアーに、いけないかも・・・）

あるいは、行つても殺されるかも、知れない・・・。そうしたら、私は、皆を殺してしまつ。

ツナ達もどうだ私を、受け入れてくれるだらつか。わからぬい・・・

そういうえば、昔も会つたよなこんなの・・・

未来「笑つちやうよ・・・」

未来は、近くのジュースを飲み、また外に行つた。

外に出ると、風が涼しかつた。

まるで、私を見て、笑つているかもしねりない。

後ろから、誰かが走つてくる音が聞こえた。

セティ「ルビー様。お部屋にお客様が来ています。お部屋に戻つてください。」

セティだった。

未来（窓つて、ヴァリアーか、10代田だうどうせ……）

未来は、表に出さない。

未来「わかった。じゃあ行つてくる。」

セティは、未来に向かつて、礼をした。

部屋を空けると、そこには、スクアーロと、マーモンと、ベルがいた。

未来、ため息をついた。

スクアーロ「う、お、おい！ため息つくなあ。」

ベル「つーか、未来さあ、なんで隠してたんだよ。」

未来（やつぱりかあ～）

未来「別に、隠してたわけじゃ ないけど……」

未来は、なんでわたしが、せめられてるみたいなの……

マーモン「落ち着きなよ、多分未来は、初めてエメラルドを見たんだよ。」

未来は、ドキッとした。

未来（何で知ってるの…）

ベル「ししあわせなんでだよ」

未来（やつぱりそうだよね…！私言つてないし）

マーモン「だつて…・それは…・・・

## パーティへ～終わり～（後書き）

最近長いんですけど、我慢してください。  
お気に入り登録と、感想おねがいします。

## Hメラルドとの関係!!

「マークモン」「だって……それは……未来の反応を、見ればわかるよ。」

未来は、エメラルド母親に会つのに、どうして、エメラルド母親について、

あんなに、聞いてきたのが不思議でね。」

未来は、マークモンの話を、否定できなかつた。

全てあつていたからだ。

未来「……」

未来は、部屋から出て行つた。

自分のせいでの、母親の事がわかつてしまつた。

未来は、走りながら叫んだ。

未来「ちくしょ——ふざけんなよ——！」

未来の声は、城の中に響いた。

未来は、泣いた。

悲しくもない、苦しくもない、ただおもいつきり、泣きたかつた。

泣いている、未来の元に、セディがやつてきた。

セディー「大丈夫ですか、ルビー様。」

未来「ルビー」って言わないで。私は、未来よ・・・

母から、取った名前なのに・・・

なんで・・・皆は、ルビーって訛つの。おかしいよー!」

未来は、必死に叫んだ。

声にならないほど  
叫んだ

セテバ落ち着いてぐなさい 未来様

わかつてますが、未来様は、あの大勢のマフィアの前で、挨拶するということは、

時期ボスの挨拶ということです。貴方は、エメラルド様の  
次にボスです。」

未来「わかってるよ。そうしたら、ヴァリアーともお別れだね。

未来は、大声で笑つた。

セティ「違つ部屋が用意されます。そちらに行つてください。」

未来「うん、ありがとう。あと、もし私が、狂つたらその時は、私を殺してね」

未来は、今まで見たこともない笑顔で、言った。

セディ「わかりません。私は、執事であり、敵ではありません。

でも、もしもの時があればですけどね・・・」

未来は、去っていった。

## Hメラルドとの関係！！（後書き）

更新遅くなつてすいません！！  
テスト勉強があつてできませんでした。  
感想お願ひします。

## 少女と逃亡!!

パーティが終わった、次の日――――――――。

? 「はあはあ、早く逃げないと、つかまっちゃう。」

少女は、何者から逃げていた。

男「早く捕まえろ――。」

男達の声が、聞こえてくる。

逃げないと、つかまつて外に、出れなくなる。

それだけは、嫌だ。

少女が逃げてると、誰かにぶつかった。

ツナ「あついたた。」めんなさい。」

ツナがぶつかった相手は、ツインテールで、帽子を深くかぶつており、顔は見えない。

少女「こちらこそすいません。油断しました。」

少女は、礼儀正しかった。

ツナは、空が、つむれこと思つて、見たら・・・ヘリコプターが、何台も飛んでいる。

ツナ「なにこれ……何でこんなにくつ」「プローターとなんでもない……」

ツナは、見て騒いでいる。

少女「早くここから逃げて……危ない……」

少女は、ヘリコプターから、飛んできた銃弾をツナたちから弾いた。

リボーン「どうして」とだ、なぜ狙われてる。」

リボーンは、山本の肩に乗り少女に問いかけた。

少女「私が狙われているだけだから。あいつらは、私を殺そうとしているの。」

少女は、走りながら言つてくる。

獄寺「お前何言つてるんだ……そもそもお前は誰だよ……」

スフィア「私は、スフィアだよ……ようじく

ともかく、早くここから逃げよつ……家近くにあるから来て……」

スフィアは、そう口つてスピードを上げた。

少女と逃げて――（後書き）

変なところが終わりですか? すいません。

## スフィアの家族！！

スフィアの家についた。

そこは・・・未来と同じ家だった。

ツナ「どうじうこと・・・なんでルミネ家の家に・・・」

ツナたちは、息を呑んだ。

スフィア「だつて私一応ルミネ家の人居だしね。」

スフィアは、不思議そうな顔でいった。

ツナ「ええ～～つてことは、未来ちゃんの妹！！」

スフィア「早く家に入つて。」

家中に入ると、玄関には、セティがいた。

セティ「いらっしゃいませ、ボンゴレー0代田ファミリー様、ネク  
ス様」

ツナは、その言葉を聞いて不自然に思った。

ツナ（なんでスフィアって言わないんだ）

獄寺「そいえば、この執事の名前聞いてないですよーーー10代田！-

！」

セティ「自己紹介が遅れました。

私の名前は、セティ・ファーストです。

エメラルド様兼ルビー様の執事をやつてます。」

セティは、一礼した。

ツナ「よろしくお願ひします。」

ツナたちも、一礼した。

セティ「今日は、何の用件で。」

スフィア「あのね、私を狙つてくる人たちに、追われているところを、お兄ちゃん達が、助けてくれたんだよ！…すごいよね…！」

スフィアは、元気な声で言った。

ツナたちが話してると、

エメラルド「誰か来ているの？…なんで貴方がいるの…？」

エメラルドは、スフィアを見ていった。

エメラルド「早くそいつを追い出して…！顔も見たくない…！」

ツナは、スフィアを見た。

スフィアは、今でも泣き出しがちな顔をしている。

セティ「すいません。部屋に案内します。」

セティは、そういうて、ツナたちの下へいき、小声で

セティ「このことは、ルビー様に聞いてください。」

セティは、部屋に向かつた。

スフィア「またね・・・おにいちゃんたち・・・後で」

スフィアは、ツナたちの背中を見ていった。

## スフィアの家族！！（後書き）

スフィアは、なぜこんなにも、嫌われているかは、次回です

## 未来とスフィア！！

セーティに案内された部屋は、部屋の中が、物凄く広かつた。

ツナ「こんなところにすんでるなんて・・・」

未来「ツナたちじやん！！おっひわー。」

「ここにつれてきたってことは、なにかあつたでしょ？」

未来は、ベットから降りていってきた。

ツナ「うん。スフィアの事なんだけど・・・」

未来「スフィア？・・・って誰？？」

皆は、驚いている。

山本「お前知らないのか？」

未来「うん。しらないよ・・・あつもしかして！..あのこの事か！」

未来は、思い出した。

未来は、REBORNの世界に行く時に、たしか・・・

ロックに、家族関係を見せてもらっていた。

未来「スフィアについて? 私知つてゐ」とすくないけどなあ~・・・

はつきり言つてめんぢ・・・・

獄寺「おいてめえふざけてるんじやね~! お前の執事に言われたんだよ。

お前に聞けつて! !

執事つて事は・・・・セテイかな?

ふざけるな! ! 面倒事任せるなよ! !

ツナ「おねがい未来ちゃん! !

スフィア見ると氣になつて。」

未来は、ため息をついた。

しうがないなあ~といいながら、ツナたちを、ソファに案内した。

未来「ここに座つて。

スフィアは、本当は、ルミネの人なんだけど・・・・

スフィアの血を調べたら・・・母の血が、35% 父の血が、65%なの。

代タルミネ家は、母の血が、65%ないと、後継者と認めら

れないの。

ちなみに私は、80%、20%なんだけど。」

ツナ「何でそんなに、お母さんの血がないと、ダメなの?」

未来「……それはね……

## 未来の眞実！！

未来「母の血が、なぜ必要かそれは・・・わかんない」

未来の、言った言葉で、一瞬シーンとなつた。

沈黙の中、一番に口を開いたのは、

ツナ「ええーー！ わかんないのーー！」

ツナだつた。

未来「だつてそんな」としらなじよーー！」

未来は、心の中で、

未来（だつてそもそも、私REBORN-の世界にいなかつたし・・・しるわけねえよーー！）

心の中で、叫んだ。

リボーン「なぜ知らないんだ・・・ふつひは、母親から聞くと、思うんだが」

未来「だから知らないっていってるでしょーー！」

山本「まあまあ、落ち着けつて愛原も。」

言い争つてゐると、ドアがなつた。

その場は、静かになった。

未来「はい、開いてます。」

未来は、急に無表情になつた。

セディ「すいません、お取り込み中。

Hメラルド様から、伝号です。

ネクス様のことば、もつといいと、だそうです。」

用件を言い終わると、一礼して、出て行つた。

未来「はあ～これで、話は終わり。

壁に向って立つて、おやすみ～

多分セディが、いふと思つから、案内してもらつて。

「おやすみ～」

ツナたちは、部屋を後にした。

## 未来の眞実…（後書き）

お気に入り・感想お願いします。

## また日本へ！！

未来は、ツナたちが出て行つてから、ボーッとしていた。

未来（つまんないなあ・・・なんか楽しいことあればいいのに・・・）

未来は、ため息をついて、ベットに倒れた。

ロック「お～い、未来。今暇か？」

急に、ロックが前に出てきた。

未来「うん。てか、ちょ～～暇だよ。」

ロック「俺いいこと考えたよ・・・日本に戻るつぜーーー！」

ロックは、楽しそうに言つた。

未来「日本があー・・・いいね！確か明日が、皆解散だからー私達は、今からいーーー！」

未来も、笑つて返した。

ロック「準備できり言えよ。あとは、すべて任せろーーー！」

未来「じゃあわざと、お前が消えろ（＝ロシ）」

未来は、笑つているが、目が笑つてない。

ロック「わかりました・・・」

ロックは、消えた。

未来「・・・また、日本かあ・・・楽しみ・・・」

未来は、ポケットから、写真を見ていった。

写真をしまって、準備をし、部屋を出て行つた。

## 久しぶりの学校ー！

未来は、家に行き、荷物を置いて、出かけた。

未来「どこの行こうかなあ・・・暇だし、学校いくか。」

並中の前に、着いた。

未来「あれ？ 風紀委員長いないんだ・・・せっかく来たのに〜

もしかしたら・・・」

未来は、正門を、飛び越えて校舎の中に、入った。

未来が、真っ先に向かったのは、応接室だった。

未来「ハロ〜〜雲雀君元気だつた？」

未来は、仕事をしている、雲雀に言った。

雲雀「君、誰？」

雲雀は、トンファーを構えている。

未来「あつ、そういうえば、自己紹介してなかつたですよね？」

並中の2・A組の愛原 未来です！！

並中「前に、商店街で、会いましたよ。」

雲雀「君、なんで学校あるの? 制服じゃないの。」

未来は、自分の服を見た。

未来の服は、白のワンピースに、ネックレスを、見せている格好だつた。

未来「アッハハハ・・・・・ごめんなさい?」

雲雀は、トシファーを振つてきた。

未来「ちよつ待つてよ~」

雲雀「この前は、咬み殺せなかつたから、今咬み殺す」

未来は、部屋を出て、外に逃げる。

未来は、後ろを向いて、

未来「いい加減に、諦めろ~」

未来は、正門に、着いた。

未来「あつ!…そつだ閉まつてた・・・・よし!…飛び越えよ~」

未来は、飛び越えて、逃げた。

雲雀も諦めたようだ。

雲雀「面白そうだね・・・・・ 愛原 未来・・・・・」

雲雀は、未来の背中に向かって、笑っていた。

またツナたちと会うー・?

未来は、雲雀と別れた後、商店街に、来てた。

未来「はあ～もうツナたちこっちに、戻ってきたか・・・なんか会いそう・・・」

未来は、進む道に、会いたくない人が、いた。

未来は、みちを戻ろうとする。

ツナ「未来ちゃんーー先に、戻つてたんだ。」

会つてしまつた。

未来「うん・・・ちょっと用事があつたから・・・・・・」

未来は、言い訳を言つた。

リボーン「ホントにそなのか?」

未来「あ、当たり前、じやんーーー」

リボーン「お前、嘘つぐの下手だな。」

わかつてしまつた。

未来「すいませんねーー嘘つぐの下手でーーー。」

未来は、反抗した。

山本「なんで、先に戻つてたんだ?」

未来「イタリアに、飽きたから、戻ってきた。」

山本「なんだ、そんなことかよ!—!」

山本は、笑つている。

未来（なんでこんなに、笑つているんだ?）

心の中で、思つた。

リボーン「俺達は、お前を探してたんだぞ。愛原 未来。

やつとお前の事がわかつたぞ。」

未来は、ビックリした。

未来（私のことが、わかつた?）

嘘でしょ!—!だって元から、私はいなかつたのに・・・・わかるわけない・・・・）

ツナ「リボーン何言つてるんだよ!—!未来ちゃんが、隠し事をして  
るわけないだろ!—!」

ツナは、必死になつて、リボーンに話している。

獄寺「いや、10代田・・・・リボーンたるの言ひ方ねえ、正しいと思います。」

ツナ「獄寺君も、何言つてゐるんぢよーーー。」

ツナも、必死に声を上げてゐる。

リボーン「ツナぢつしていえむ。愛原が、隠し事をしていない証拠は、あるのか?」

ツナ「ないけど・・・・未来ちゃんないよね・・・・隠し事なんて。」

ツナは、未来を見て囁く。

未来「私は・・・・

またツナたちと会うー? (後書き)

次回未来の秘密!」とに、迫ってみますーー!

ポンパレとの関係——（前書き）

長いです。

## ボンゴレとの関係ーー！

未来「…………私は…………隠し事なんて…………」

未来は、その後は、黙ってしまった。

つまりそれは、隠し事があると、言つて居ることだ。

ツナ「嘘でしょ…………なんで隠し事なんて…………」

ツナは、動搖している。

未来「アッハハハハハハハハハハハハハハハ！」

未来の高い声が、響く。

未来「バカじやないの…………いつとくけど、私は、ボンゴレなんて大嫌いだ！！！」

ボンゴレなんて…………ろくなやつがいない。」

未来は、息切れしている。

皆は、いつでも戦闘できるように準備している。

未来は、自分がつけているネックレスを手に取り、握った。

未来「いいよ…………みんながその氣なら、しょうがないね…………」

ボンゴレがどんなにおろか、教えてあげる・・・」

未来は、下を向いた。

未来「私は、母親がいたは、エメラルドじゃない本当の母親が、

母親は、もちろんマフィアだつたは、

母は、任務中に、ボンゴレの人についたの。

この任務は、ボンゴレの壊滅だった、

母は、その人に一目惚れしたわ。

任務中しかし、相手は、敵のボンゴレ・・・恋をしてはいけない関係。

母は、この戦闘で、亡くなつてゐることにしたの・・・恋をした相手も、死んだことになつて

いる。

二人は、結婚をし、私を産んだ。しかし、ここで歯車は、狂つたわ。

二人とも死んだことになつていたはずが、生きているつてことが、分かつてしまつた。

ボンゴレのほうは、娘と奥さんを殺せ。

母のほうは、娘と夫を殺せ。

どちらも、ボスからの命令は、殺せと言ひ、命令。どつちも、幸せを求めたから、神様からの、天罰だ、と思つていた。

だが、父のほうは、自分が殺されると思い、母を殺した。

私がまだ、5歳の時だった。

父は、命令どつり私も、殺そつとした・・・

だが、私は、母が死んでいたのを見て、父が、裏切つたことに、気がついた。

私は、許せなかつた。あんなに、幸せそつな、両親だつたのに、

父の裏切り、しかも命令したのは、ボンゴンのボス・・・

だから、私は、母を殺した、ボンゴンを許さない・・・

未来は、今にも泣きそうだつた。

未来「これで話す」とはないわ・・・やよいなり・・・ボンゴンの旨やん・・・

沢田 綱吉・・・」

最後に言つた、未来の言葉だけが、うれしそうに聞こえた。

## ポンパレとの関係――（後書き）

未来の、過去言ひやせつたよ。  
なお、これは、過去の話です。  
まだ、未来自身の、秘密はあります。

喧嘩！

未来は、ツナたちと別れて、10分経っていた。

未来は、自分の家に着いた。

未来「ただいま～～ロックいるでしょ。」

未来は、今はとてもదるかつた。

ロック「おかえり、いるぜ。」

ロックは、堂々とソファに、座つていた。

未来「なあ～に、やつてるのかなあ～？？ロック君は・・・」

未来は、最高の笑顔と、殺氣をしながら、言つた。

ロック「すいません。調子に乗つていました。いい注意します。」

未来も、謝つているロックの隣に、座つた。

ロック「ちよつと・・・話があるんだが・・・」

未来「わかつてゐよ・・そんなの、どうせかつきの話でしょ。」

ロック「ああ、そうだ。分かつてると思つが、お前は、元々ない  
いイレギュラーだ。

なのに、なぜあの話をした！――

未来は、初めて見たロックの表情だった。

ものすごい、無表情で、田からは、怒りの感情が、出ている。

未来「『め・・・ん・・・なぜか・・・あの時に・・・記憶が、  
流れ・・・きて・・・』」

未来は、泣いていた。

ロックの冷たい表情が、怖いのだ・・・いや、怖すぎる。

ロックは、なぜ未来が、泣いていたのか、すぐ分かった。

ロックは、無表情から、優しい表情になり、笑つて

ロック「怖い思いさせて『めん。

でも、どういう事だ！？

記憶が流れてきた・・・」

ロックは、それを聞いて思い当たる節があつた。

ロック（記憶が、流れてくるって、未来の思考に、誰かが、その記憶を流し込んだとしか、考えられない

でも、もし未来が、多重人格だったら、ありえる。

でも、それだつたらすぐに、分かるはずだ。）

ロックは、悩んでいた。

未来「ロックそんなこと考えてたの・・・・・・酷い！！ロックのバカ

未来は、心が読めるので、ロックが、考へてゐることは、分かつた。

未来は、家を出て行つた。

部屋に、残つたのは、静かになつた部屋と、ロックだけだつた。

## もう一人の自分！！

未来は、家を出てきた後、山に来ていた。

未来「ハアハア・・・・ロックめ！！私が、多重人格だとーー！」

・・・・でも・・・・そうかもしれない・・・・」

未来は、思い当たる事が、ある。

特に、勝負してる時だ。

急に、楽しくなって、もつと殺したい、もつと血が見たい・・・・  
など、普段考へてないことが、やりたくなる。

まるで、違う自分が、それを求めているみたいで、怖くなる。

『・・・・そうだ、最求めればいい』

未来「誰？もしかして・・・・違う自分・・・・」

『・・・・さあ、もつと殺せ！！殺せばもつと楽になる』

未来「どうこうことーー何で殺さないといけないのーー」

『 もともと、お前は、本当の自分に、きついでいい』

未来「意味わかんない！！」

未来は、倒れた。

未来「！？」

未来（何これ・・・動けない・・・）

『・・・安心しろ、最後に、我が名は、ジョーカだ』

未来は、一瞬復讐者ヴィンディチフが、見えたようだった。

未来は、意識を失った。

あの人！！

未来は、起きたら違う場所にいた。

その場所は、暗い部屋で、電気が、一列に並んでいた。

未来「ここのどこの？」ととりあえず探してみるか・・・」

未来は、一列になつている光つてる道を、歩いた。

歩いていると、一つのドアがあった。

未来「ここでいいのかなあ・・・」ととりあえず行くか。」

未来は、ドアを開けた。

開けた先は、奥が真っ暗で、人の気配がした。

未来「誰か・・・・いる・・・」

未来は、さらに奥に進み、確認しながら歩いた。

?「そんなに警戒しないでよ・・・未来。」

その声は、奥から聞こえた。

未来「出てきて・・・貴方は誰？」

未来は、一つ剣を、取り出した。

出てきたのは、男だつた。

? 「なあ・・・未来、俺のこと忘れたの?」

未来は、何のことだかわからなかつた。

未来「何言つてるの!! 貴方は誰?」

ジョーカー「俺が、ジョーカーだよ。会いたかつたよ、未来。」

未来は、ジョーカーの名を聞いたことがあつた。

未来「貴方が、私に話しかけてきたのね。」

ジョーカー「ああ、そうだよ。」

未来「私は、お前なんて知らない・・・」  
のになあ~」「

未来は、剣を構えた。

未来「私は、お前なんて知らない・・・」

未来は、ジョーカーの近くに行き、ジョーカーを斬つた。

もうそこには、ジョーカーはいなかつた。

ジョーカー「いきなり酷いよ・・・」

ジョーカーは、未来の後ろにいた。

未来は、ジョーカーから離れた。

今度は、ジョーカーから、未来近づいた。

ジョーカーは、目に見えない速さだった。

未来が、見た時は、もう目の前にいた。

あの人に！（後書き）

いいところですが、次回です。

## 新たな名ー！

未来（やばい……でも、これじゃよけれない……死ぬのか…  
・  
・  
・）

目をつぶって、殺されるのを待った。

痛みは無く、目を開けた。

ジョーカーは、目の前にいた。

未来「私……死んでない……なんで！？」

ジョーカー「未来を殺すわけ無いよ。

未来がいないと困るの俺だし。」

ジョーカーは、笑っている。

未来もつられて、笑った。

未来「てかさあ……こいつら？？」

一番気になつていてることを聞いた。

ジョーカー「ここのは、俺の幻想世界だ。」

未来「えーーーと何で私は、ここにいるのかな？」

ジョーカー「だつて・・未来は、俺で、俺は、未来だ。」

未来「言つてることが分からんだけど・・・・・」

ジョーカー「つまり、俺は、もう一人のお前だ！！」

未来「！？」

ビックリ過ぎて、声が出ない。

ジョーカー「俺は、戦いがメインだ。」

未来が、戦つてる時は、俺の力を貸している。

逆に、戦いじゃない時は、未来だ。」

未来「えつ！・・そうだったの！・・・

（だから、戦いの時は、我を失うのか・・・なるほど・・・）

ジョーカー「俺は、ヴィンディチフ復讐者ヴィンディチフの支配者だ。」

未来「えつ・・・・支配者？嘘でしょ！・・・」

ジョーカー「いや、これが本当なんだよ！・だから、未来も、ヴィンデ復讐者ヴィンデの支配者

つてこと。」

未来「わ、私も！・・嘘でしょ・・・・・」

ジョーカー「しょうがないよ・・・未来・・・ボンゴレに、憎んでるって話したでしょ・・・」

あれは、本当は、俺の記憶なんだ・・・」

未来が、話してる時、記憶が流れてきたのは、ジョーカーの記憶。未来（ちょっと待てよ・・・ことは、私が、転生してきたこと、知ってるジャン！）

ジョーカー「俺は、ずっと待つてたよ、未来のこと・・・

これで、永遠に離れないね・・・

俺が、全部つまみやつておくから、今は、眠つてて。」

未来は、だんだん眠くなってきた。

未来（なにが・・・うまくいくの・・・ジョーカー）

未来は、意識を失った。

ジョーカー「大丈夫だよ・・・俺らで、ボンゴレをつぶさう・・・

誰もいない・・・世界を作ろう・・・ルビー・ル

ミネ・未来、

いや、『シークレット・プリンセス  
秘密の姫』

ジョーカーは、未来に向かつて笑っていた。

まるで、悪魔のような顔で・・・

仲直り！！

未来は、起きた時は、自分の部屋にいた。

未来「あれ？何で家にいるのかなあ？」だって、さつきは、ジョーカーと会つてたし……」

ロック「未来起きたのか……」

ロックがいた。

心配そうな顔をしている。

未来は、気づいた。

未来（そういうえば……まだロックと仲直りしてないんだ……）

未来「ロック……この前は『めんなさい』

頭を下げて、謝った。

ロック「俺も悪かった……未来は、未来だもんな」

二人は、笑いあい、笑顔になつた。

ロック「俺昨日は、心配したぜ。」

だつて、未来が帰つてきたら、お前すぐ自分の部屋行つたよな。」

未来（それって……ジョーカーが、私の体使つたってこと……！）

ジョーカー『そうだよ……未来の体使つたっていいじゃん。』

未来<sup>よくない</sup>：

ロック「どうした、未来？」

未来「なんでもない」

未来は、立ち上がりで出かける準備をしている。

ロック「どうかいぐのか？」

未来「うん……いつてきま～す」

ロック「いつてらっしゃい

**仲直り！！（後書き）**

ジョーカーの、説明書をますので・・・  
お楽しみに  
感想も待つてます

## 六道 骸に会つー！

未来は、家を出て向かった先は、黒曜ランドだつた。

黒曜ランドに着き、中に入る。

未来「誰かいる？？出できて～」

犬「お前誰だぴょん！…」

未来「やつと出でてくれた！…私は、愛原 未来。

骸に用があつて。」

犬「骸さんに？ついてくるぴょん」

着いたところは、部屋だつた。

千種「…犬、その人誰…？」

犬「骸様に用が、あるみたいだぴょん。」

クローム「骸様に…？」

未来「そう…骸に用があつて…」

えつーーと…貴方達は？」

犬「城島犬らつ」

千種「…………めんどい…………」

未来「なにそれ……名前ぐらいは言ひてよ…………」

千種「……柿本千種…………」

クローム「…………クローム…………髑髏…………」

未来「私は、愛原 未来、よろしく…………」

クローム「…………よろしく…………未来…………」

未来「よろしくね…………クローム」

クロームは、恥ずかしいのか、下を向いてしまった。

未来「ねえ、クローム、骸に会えない?」

クローム「今、聞いてみる…………」

クロームは、目をつぶつた。

クローム「いひつて…………」

クロームの周りに、霧が出てくる。

骸「クフフフフ」

男の声がした。

骸「貴方ですか、私を呼んだのは」

未来「初めまして、私は、愛原 未来です。」

骸「私は、六道 骸です。」

未来・・・私になんのようですか?」

未来「いや~用つてほどじゃないけど・・・

骸つてさあ~ツナの霧の守護者じやん・・・

会つてみたいなあ~と、思い来ただけ。」

骸「クフフフ、そうですか・・・。」

未来「これから、よろしくね!~!」

骸「いいですよ、クロームを頼みました。」

そつこつて、また霧が、出てきて、クロームが、倒れてきた。

未来「おっと、危ない。」

クローム「未来・・・話終わったんだ・・・」

未来「うん、じゃあね、クロームたち・・・」

未来は、クロームたちに、手を振つて、行つた。

## ジョーカーの設定！！

名前	ジョーカー
身長	154cm
体重	50kg
髪型	ショートで、赤色
目の色	赤色
武器	未来と一緒に
性格	めんどくさがり、人を信じない
好きなタイプ	誰にでも本性を出さない人、人を信じない人、世界を憎んでいる人
嫌いなタイプ	人を信じる人、優しくする人、何も考えてない人
説明	未来のもう一人の人格、未来だけを信じ、未来のためなら、なんでもする、
過去に暗い思いをしている。	
未来を使って、何かをたくさんしている。	
未来の体を、自由に使って、思考が、読める。	

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n4582y/>

家庭教師ヒットマンREBORN！ 秘密の少女

2011年12月19日18時52分発行